

# 日本の良さを理解し始める中国人

● 放眼日中



コラムニスト・アジアソウオッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。

中国の福建省、鉄観音茶の産地である安溪を最近何度か訪ねている。

昨年までは廈門まで車で迎えに来てもらっていたが、今年は路線バスが開通したというので、自力で行くことにした。廈門からバスで1時間ほど行った同安という街のバスステーションに行くくと、11時半発のバスは3分前に既にターミナルを離れていたが、奇跡的に大通りの手前で捕まえて、無理やり乗り込んだ。

バスは思いのほか混んでおり、大きな荷物を抱えた新乗客(筆者)は間違いない迷惑な存在であったが、運転手の後ろの荷物置き場に座り込んでいたおばさんが、実に優しく手招きしてくれ、荷物の置き場を作り、自分の場所を半分あけて座らせてくれた。

何と親切なのだろうと思っていると「あなた、日本人でしょう」と聞

いてくる。通常、筆者は香港人や台湾人に間違えられても、すぐに日本人とは見抜かれないのに、なぜ分かったのかと聞くと「だって日本人の友達がいるから」との答えが返ってきた。

すると、その問答を聞いていた運転手が「日本人だぞ！それは良くない。30万だぞ？」と言ってきた。「何が30万？」と聞き返すと「南京だ！」というので、ピンときたが、何と返そうかと考えていると、さっきのおばさんがすかさず「そんな歴史の話をしてどうするのよ！今の日本人は中国人よりよほど礼儀正しいし、誠実なのよ」と筆者の代わりに言い返してくれた。運転手はそれきり黙り込み、他の乗客も特に何も言う者はなかった。

終点で降り、ちよつと行き先の方向に迷っていると、「おーい、日本

人！こつちで茶でも飲まないか」とあの運転手が声を掛けてきた。以前なら関わり合いになりたくないと思っただろうが、最近は流れに任せる旅をしており、そして何より「お茶」に反応してしまい、その誘いに乗り、運転手の事務所でお茶をご馳走になった。

彼は茶を振る舞うと、いきなり「ぜひここに電話してくれ！外国人からサービスの良い運転手だ、と電話があれば、ボーナスがもらえるかもしれないから」とバス会社の電話番号を渡してくる。普通の日本人なら「なんと虫の良い運転手だ、あんなこと言っていたのに」となるかもしれないが、筆者にはすぐに真意が分かった。彼は先ほどの「南京……」の発言を後悔していたに違いない。だが、人前で自分の失言を咎められ、謝るわけにもいかない。彼は単に人

の良い、田舎のおじさんなのだ、と好ましく思えた。

このようなケースには、実は過去何回か直面している。このおじさんのように「日本」と聞くと「人民の敵」と条件反射してしまう、最近の日本のことを全く知らない中国人は今も大勢いる。

もちろん、これは教育や報道の問題なのだが、反論してくれたおばさんのように、1人でも日本人の友人がいれば、見方はかなり変わる。ましてや日本に大勢の中国人が訪れる昨今、日本の良さが少しずつ理解されてきており、少なくとも日本に対する非難を振りかざす中国人は確実に減ってきている。

「中国人を味方につける」ことは、これからの日中関係において、「決して悪いことではない」と心から思うのだが、どうだろうか。